


令和3年度 道徳授業公開 2年生

年 組	2年1組
教 材 名 (出展)	ガラスの中のお月さま (東京書籍)
内容項目	感動・畏敬の念
あらすじ 話し合ったこと	<p>教材「ガラスの中のお月さま」は、お月さまが、自分のことを悪く言うガラスたちが泥棒に盗まれそうになったにもかかわらず、誰もが気付かないように、温かい心で解決を図るという広い心をしつとりと感じさせたい内容である。</p> <p>終末では、「何よりもよかったことは、あの人が悪い人にならずにすんだことだよ。」というお月さまの言葉に込められた思いや願いを話し合った。</p>
<p>—児童の反応(感想)—</p> <p>導入で、自分自身が「すてきだな。」「きれいだな。」と感じたことを思い起こさせて発表した。「青空」「星」「富士山」など、自然を中心に目に見えるものが次々にあげられた。その後、本文を読んでいくうちに、「やさしさ」「助け合うこと」など内面的な目には見えないことも美しさの一つなのだ、ということに気付きはじめたことが発言や記述から伝わってきた。</p> <p>「見た目では判断しては、いけないな。」「お月さまのような心になりたいな。」「ガラスのつぼは、自分に気付けたからすごいな。」「悪いことをしようとしたのに、悪い人にならずにすんだことが、何よりよかった、と言ったお月さまは、本当に心の温かい方だな、と思った。」など、いろいろな角度からそれぞれの心の変化とよさに気付き、目には見えないものの美しさにも、目が向くようになった。</p> <p>終末で、教師から児童に「先生が今朝、昨日、すてきだな、と感じたこと」を、児童の言動や行動を例に具体的な場面を話すと、とてもしつとりと聞くことができていた。帰りの友達同士のあいさつがいつもよりもやわらかく響き合う様子に、児童の中に多少なりとも授業の余韻が残っていると感じた。</p>	
	

年 組	2年2組
教 材 名 (出展)	ぼく (東京書籍)
内容項目	生命の尊さ
あらすじ 話し合ったこと	「ぼく」という男の子が、「ぼく」の好きなことをさまざまな面から語り口調であげていく。最後に、いちばん好きなものは、「ぼく」であるとしている。「ぼく」がいちばん好きなものは「ぼく」ということはどういうことなのか、みんなで話し合った。その話合いの中で、「うれしい」「楽しい」と思えるのは、命があるからなのだという事に気づき、「生きている」ということが大切なのだと感じる姿があった。
<p>—児童の反応（感想）—</p> <p>今日の授業では、「ぼく」の好きなことやものをあげていく中で、自然と自分の好きなことやものを考えている様子が見られました。「ぼく」がいちばん好きなものは「ぼく」ということについての話合いでは、「自分がいなくては何もできない。」「生まれてきてよかった。」「自分がいなかったら、みんなも悲しむ」など、いのちについて考えた発言が沢山上がりました。その後、自分の好きなものやことについて考え、発表しましたが、導入時には、好きなものとして食べ物やおもちゃ等をあげる児童が多くいましたが、授業後は「家族」「友達」「クラスみんな」「みんなの笑顔」などの人との関わりも好きなものとしてあげる児童が多く見られました。</p>	
